杉戸町今昔往来伝
～古きをたずねて杉戸を再発見～
第115回

郷土の偉人・大島有隣
―石門心学入門⑰―

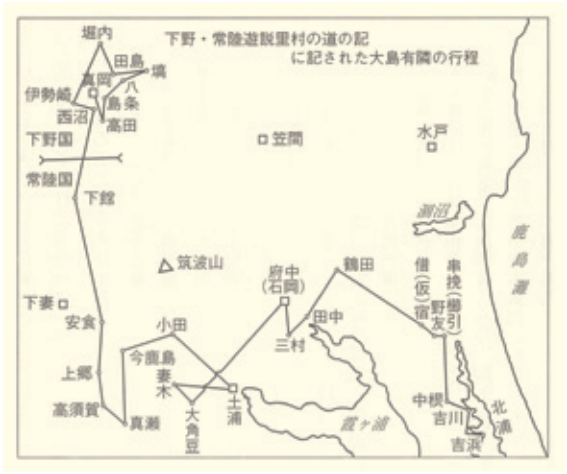
これまで何度か見てきたように、為政者側である武士階層にも、心学に傾倒、心酔するもの、そして心学の力を借りて、領民教化を図ろうとしたものがいました。もちろん、各藩や武士個々人の思想等にもより、温度差はあったでしょうが、積極的に心学思想を取り入れた藩や大名、代官も少なくなかったことは確かです。

例えば、下野国真岡（現栃木県真岡市）の代官を務めた竹垣庄蔵直清は、文化十五年（一八一八）、大島有隣に委嘱し、支配地内の村々を巡講させ、領民教化に意を用いた人でした。その後任の代官である田中五郎左衛門も、文政十二年（一八二九）正月から三か月、やはり大島有隣を招き、支配地内を巡講させるなどしています。

下野国地域に心学が入ってきたのは、寛政初年の頃（一七九〇年代）といわれ、その頃すでに北条玄養が植松自謙を伴い（二人とも有隣と同じく中沢道二の門下）、幕府領代官所支配地域のほか、宇都宮・烏山城下での心学遊説を行なっています。それから約三十年間、地域差があるにしても下野国内では、心学教化活動が不断に行われていたことがわかります。

文化十五年の大島有隣の遊説は、その下野国と常陸国（現在の茨城県の一部）の諸地域で行われ、その折の様子を日記にしたのが、「下野・常陸遊説里村の道の記」です。この日記を見ると、有隣遊説の行程も具にわかり、いかに精力的な活動だったかがわかります。

（つづく）



（社会教育課　町史・文化財担当編）

第2回 杉戸町農業祭を開催しました

問合せ
産業振興課　農業活性化担当　内線322

11月５日㈰、アグリパークゆめすぎと（大字才羽）にて、第２回杉戸町農業祭が開催されました。杉戸産の農産物のPRと地産地消の促進を図ることを目的としてイベントが開催されました。

当日は、農産物品評会や杉戸産の農産物販売、農産物利用店の出店、ステージイベントなど、様々なイベントが催されました。また、友好都市である「福島県富岡町」や交流協定を締結している「埼玉県神川町」からも参加があり、各出店ブースとも列を作り、それぞれのお店を楽しんでいる姿がありました。

会場には、親子連れの姿も多く見られ、約6,500人の方が来場されました。イートインスペースでの軽食など農業祭を満喫していました。

町長コラム　新しい杉戸への挑戦！

町長コラムについては、紙面の都合上、12月号及び１月号はお休みさせていただきます。

発行　杉戸町／編集　秘書広報課　〒345-8502 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地2丁目9番29号
☎0480(33)1111 FAX 0480(33)4550　ホームページアドレス http://www.town.sugito.lg.jp/

VEGETABLE OIL INK
UD FONT by MORISAWA
ユニバーサルデザイン（UDフォント）を使用し、読みやすい書体を採用しました。